成蹊学園広報

2010 Summer
vol.78
SEIKEI GAKUEN

成蹊教養カリキュラム、始動

文理の枠を越えた幅広い教養と確かな英語力の修得をめざす

インタビュー 桃李の人々

ロイター記者

西川 洋子

セントポールズ校への留学を通して
日本をもっと深く理解することの
大切さを再認識しました

Contents

2 「成蹊教養カリキュラム」始動
4 桃李の人々（西川 洋子）
7 成蹊教育のいま（義村 敦子）
8 百年十話 ―成蹊学園の歴史―
10 成蹊学園創立100周年記念事業特集（法科大学院）
12 大学の近況
14 中学・高等学校の近況
16 小学校の近況
18 2009年度決算および事業報告
22 2011年度入学試験日程
23 学園トピックス
24 学園史料を読む

蹊。

Series 学園史料を読む

《中村春二肖像画》

一九二八（昭和三）年二月二一日、学園本館大講堂に一点の肖像画が展示されました。二〇号のカンヴァスに描かれたモデルは成蹊学園創立者の中村春二、制作者は明治から昭和にかけて日本洋画壇で活躍した画家中沢弘光〈一八七四（明治七）―一九六四（昭和三九）年〉です。

若き日の中村春二は画家の道を志したほど芸術に造詣が深く、友人のなかには多くの画家がおり、あらゆる場面で彼らの活動を支援していました。《中村春二肖像画》を制作した中沢弘光も、若い頃から画筆の交流を深めた友人のひとりでした。

《中村春二肖像画》に関わる直接的な記録史（資）料はありませんが、『浅野校長時代日誌』（※1）には一九二八年一月二日に賛助員の今村繁三が中沢弘光を伴って来校した際に肖像画の制作を依頼したこと、制作期限は二月一〇日とすること、また額縁は学園で用意することなどが記されており、制作背景の一端を垣間見ることができます。

中村春二は一九二四（大正一三）年二月二一日に急逝したため、中沢弘光は残された正装姿の中村の写真を基礎に肖像画の制作を進め、予定通り二月一〇日に完成させました。

《中村春二肖像画》は中村の命日に大講堂に展示されましたが、成蹊高等学校（旧制）の文集『こみち』（※2）では、当時の様子を次のように記しています。

「二月二一日―故中村先生追悼会。成蹊女学校の生徒及び卒業生観音経奉唱。今日より先生の肖像を講堂に掲げて朝な朝な先生の前にて凝念する事となれり。故先生御在世当時よりの生徒の感慨一入深るべし」

「故先生御在世当時よりの生徒の感慨一入深るべし」とあるように、学園関係者に《中村春二肖像画》を初めて披露したこの年の追悼会は、参列者のなかでも特に中村に直接指導を受けた生徒にとって恩師の面影を偲ぶ特別な機会となったようです。

移りゆく学園の様子を静かに見つめ続けてきた《中村春二肖像画》は戦時中の混乱により一時的に取り外され、戦後は再び大講堂に展示されました。しかし、作品の保存状態を考慮し、現在は学園史料館において大切に保管し、年に一度期間を設けて一般公開しています。

［二〇一〇（平成二二）年三月、本館耐震改修工事の完了を契機として、大講堂には久方ぶりに《中村春二肖像画》の複製画が展示されました。］

（成蹊学園史料館　露崎 幸）

（写真）左上：《中村春二肖像画》油彩・カンヴァス　中沢弘光／1928（昭和3）年
右下：《中村春二肖像画》を囲んで　昭和はじめ

※1「浅野校長時代日誌」は成蹊高等学校（旧制）初代校長浅野孝之の行動に関する事柄を記した史料で4冊現存する。
※2「こみち　中村春二追悼号」第25号
成蹊学園／1930（昭和5）年2月21日

100th ANNIVERSARY 1912-2012

成蹊学園広報
2010年7月10日 発行
学校法人 成蹊学園総務部広報課
東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話（0422）37-3517
URL http://www.seikei.ac.jp　e-mail koho@jim.seikei.ac.jp

ミックス品
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-003520
© 1996 Forest Stewardship Council
FSC

成蹊教養カリキュラム始動

文理の枠を越えた幅広い教養と確かな英語力の修得を目指し、
「成蹊教養カリキュラム」がスタートしました。

成蹊教養カリキュラム①

学びの特色

1 社会で使える英語を身につける

「成蹊教養カリキュラム」では、すべての学部で英語を必修科目としています。発展科目と合わせて体系的に学ぶことで英語への意識を高め、実社会で使える英語を身につけます。

2 文系・理系を越えた、幅広い視野と知識の修得

どの学部の学生にとっても必要な、社会で求められる一定水準の教養を身につけるための共通科目を、数多く設置しています。理系・文系にかかわらず幅広い分野の知識を修得することで、多角的な視点と柔軟な思考力を身につけることができます。

3 社会人として必要なコミュニケーション能力の育成

ゼミ形式の授業を「基礎演習」として全学部で開講します。この双方向対話型の授業を一年次の必修とし、他者を理解する力、自己表現力などコミュニケーションスキルを身につけます。また、日本語力科目をおき、確実な文章表現力を養います。

4 「コア科目」と「発展科目」により段階的な学習が可能

カリキュラムには多くの学生に履修を促す、基礎的で重要な「コア科目」とコア科目をもとに、学生の興味や関心に応じて履修できる「発展科目」を設置。段階的に知識を深めていくことができます。

成蹊教養カリキュラム②

基本構造

創立者中村春二の理念である「個性尊重の人格教育」を受け継ぐ「桃李成蹊科目」、「社会性の育成」「国際性の育成」というこつのテーマと「人間形成系統」「文化創造系統」という二つの系統を組み合わせた科目群で構成されています。

カリキュラム体系

桃李成蹊科目		成蹊の特色
日本語力科目 キャリア教育科目 情報基盤科目 健康・スポーツ科目	総合文化科目 ●人間と文化 ●社会と文化 ●科学技術と文化	社会性の育成
Attention 英語科目	Pick Up 国際理解科目 ●初修外国語･異文化理解 ●国際教養 ●実践国際理解	国際性の育成
人間形成系統	文化創造系統	

Attention 英語科目

実社会で使える英語力
必修科目によって確かな力を身につける

英語科目 “ASSET-Program” について

成蹊教養カリキュラム英語部会座長
文学部教授 下河辺 美知子

英語科目一覧（全学部必修）

コア科目

- College English A Ⅰ
- College English A Ⅱ
- College English A Ⅲ
- College English A Ⅳ
- College English B Ⅰ
- College English B Ⅱ
- College English B Ⅲ
- College English B Ⅳ

発展科目

- TOEFL Preparation Ⅰ
- TOEFL Preparation Ⅱ
- TOEIC Preparation Ⅰ
- TOEIC Preparation Ⅱ
- Media English Ⅰ
- Media English Ⅱ
- Presentation Skills Ⅰ
- Presentation Skills Ⅱ
- Discussion Skills Ⅰ
- Discussion Skills Ⅱ
- Essay Writing Ⅰ
- Essay Writing Ⅱ
- Extensive Reading Ⅰ
- Extensive Reading Ⅱ
- Global Issues Ⅰ
- Global Issues Ⅱ

ASSET-Program（All Seikei Students' English Training Program）とは、成蹊教養カリキュラムの英語科目全体の別称です。asset（n.）には「資産」「その人の強み」という意味があり、英語科目の修得を通じて英語をみなさんのassetにしてほしいという願いがこめられています。

ASSET-Programでは、全学部の学生に対し**College English AⅠ～BⅣ**を8単位必修で課すとともに、TOEIC、TOEFL受験の必須化のほか、さらに高度な英語力の習得を目指す学生には発展科目も豊富に用意しています。

また、2010年度新入生には入学時に**ASSET-Program手帳**を交付しています。この手帳には、成蹊教養カリキュラム英語科目を学ぶ上での前提となる「自己学習」用のツールを収録しています。TOEIC、TOEFLや各種英語検定試験の説明、インターネット上の英語関連サイト、辞書の選び方・使い方、留学や多読とリスニングの勧めなど、学生に役立つ情報に、テストスコアや学習計画、学習成果を記録できるページをつけました。

Pick Up 授業紹介

文系のための科学実験
文系学生へ理系教育を行うことの重要性

担当教授からの授業紹介「科学的に考える」

理工学部教授 伊藤 郁夫

文系学生といえども自然科学を学ぶことが大切なのはいうまでもありません。現代社会が科学技術の支えなしに成り立たない以上、その功罪も含めて科学を知ることは現代という時代を知ることでもあるからです。科学の学び方はさまざまですが、体系的に学ぶこととはまた別に、音楽を聴いたり小説を読んだりするのと同じ日常的な感覚で、科学の実験を「愉しむ」ことができれば、というのがこの授業の発想です。

光の実験では3D映画で使われる偏光メガネを通して窓の外の景色や携帯の画面を観察しました。機種によって画面もいろいろ工夫されていることがわかります。静電気の実験ではテレビでもよく見かけるパフォーマンスを自ら試してみました（写真）。蛍光灯が光ったり、水が動いたりして、静電気の意外な一面を見ることができました。実験を通して得たささやかな発見に、知的興奮指数が何ポイントか上がった状態で実験室から出てくれることを担当者としては願っています。

▲伊藤郁夫理工学部教授による「キャンディを噛めば口の中で放電」の授業

▲静電気の実験の様子

受講学生の声

僕は根っからの文系で、科学や物理のような理系科目は苦手でした。しかし大学の科学の授業はどのようなものか、と興味が湧いたためこの講義に登録しました。すると今までの中学、高校の授業とは違う（文系向けというのもあるかもしれませんが）実験で、とても楽しいものでした。理論を学ぶ、というより実験をしてなぜそういう結果になったのかを自分で考える内容となっており毎週楽しみにしています。

法学部政治学科1年 渡辺 紳太郎さん

授業計画

- 第 1 回 ▶ ガイダンス
- 第 2 回 ▶ 楽器の科学
- 第 3 回 ▶ サングラスを通して見える世界
- 第 4 回 ▶ キャンディを噛めば口の中で放電
- 第 5 回 ▶ 電気を知る
- 第 6 回 ▶ コーヒーの冷め方
- 第 7・8 回 ▶ プリズムとCDのつくる虹
- 第 9・10 回 ▶ 手作りの電池でオルゴールを鳴らしてみよう
- 第 11・12 回 ▶ 御影石の放射線から地球の歴史に思いをはせる
- 第 13・14 回 ▶ 宮沢賢治のみた過冷却湖畔のかすかな光
- 第 15 回 ▶ 授業のまとめ

インタビュー

桃李の人々 vol.26

卒業生ロングインタビュー

セントポールズ校への留学を通して日本をもっと深く理解することの大切さを再認識しました

ロイター記者

西川　洋子

Yoko Nishikawa

ロイター東京支局の記者として、政治、外交、経済分野を中心に、精力的に取材されている西川洋子さん。成蹊高校入学後、セントポールズ校に留学し、ジョージタウン大学を卒業されています。成蹊学園時代の思い出と、留学経験を通してどのような意識を身につけたのかを語っていただきました。

数多くのクラブ活動を経験　中学ではテニス部主将を務める

―小学校から成蹊学園で学ばれていますが、小学校の印象はいかがでしたか。

西川　桜並木が満開で、舞い落ちてくる花びらを制帽の中に集めて走り回っていました。とてもきれいだったのを覚えています。

成蹊の生活は自由で、明るく活発に過ごすことができました。私は外で遊ぶことが大好きで、鉄棒やトンネル山、どろんこ山などがお気に入りの場所でした。制服のスカートを鉄棒に巻いて回転して遊び、何着も破ってしまったこともあります（笑）。ちょっとお転婆でしたね。

―クラブではどのような活動をされましたか。

西川　小学生の時はさまざまなクラブ活動を経験しました。運動が好きだったので、五・六年生ではバレーボール部に所属。そのほか、飼育部でニワトリやセキセイインコを育てたり、器楽部で木琴、鉄琴、マリンバなどを演奏したり……。授業でも、社会科で蕎麦の実から挽いて手打ち蕎麦を作るなど、楽しみながら学ぶことができました。

中学生になってからは、テニス部に入りました。三年生の時にキャプテンを務め、残念ながら一回戦敗退でしたが、関東大会にも出場しました。

自分を見失った時の温かいアドバイスに感謝

―印象に残っている先生はいらっしゃいますか。

西川　成蹊は先生方との距離がとても近い学校です。私もよく休み時間に職員室に行き、先生方に相談したり、さまざまな話を聞いたりしていました。そんな中で、とくに印象深いのが、中学三年生の時の滝沢七郎先生のアドバイスです。その頃の私は、自分に限界のようなものを感じて悩んでいました。授業も真面目に聞き、自分なりに一生懸命頑張っていたのですが、努力だけでは克服できない面があるように感じ始めていたのです。ノートを貸した友人の方が好成績をおさめたケースもあり（笑）、自分の周りには、才能のある人が多くいることに気づき、自信をなくしていました。そこで、「この先大きな壁にぶつかるようなことがあれば、自分には乗り越えるだけの力が備わっていないような気がする」と、滝沢先生に相談したわけです。先生の答えは「壁にぶつかって、越えることができなくてもいいのではないか。壁にぶつかることがまたいい経験になる」というものでした。この言葉で、気持ちがすっと軽くなったことを覚えています。いま振り返ってみると、なぜあんなに悩んだのか、不思議な気もします。ただ、そんな時に、「もっと頑張れ」ではなく、「そのままでいいのだよ」と、温かい声をかけてくださったことに感謝しています。

常に「意見」が求められるセントポールズ校の授業

―高校入学後、セントポールズ校に留学されたのですね。

西川　それまでの私を、誰も知らない環境に身を置き、新たな気持ちで再出発したいと考えたのが、留学を決意した理由です。大きな壁に直面するような、新しい挑戦をしたかったのです。

その頃、セントポールズ校に留学したテニス部の先輩が、夏休みにコーチに来ており、留学生活の様子を聞く機会も得ました。話を聞いているうちに、留学にさらに興味を持ちました。

―セントポールズ校での思い出を聞かせてください。

西川　英語は得意なつもりだったのですが、最初は授業がまったく聞き取れず、苦労しました。第二外国語でドイツ語を履修したのですが、先生が話しているのが、英語なのかドイツ語なのかも分からなかったほどです（笑）。

しかも、アメリカでは大量の宿題が課されます。翌日までに四十ページほどの文章を読んでから授業に出席しなければならないことが毎日のようにありました。

授業スタイルも、講義形式ではなく、ディスカッション形式で進行します。日本の場合は、「正解」を教えられ、それを覚えればいいわけですが、アメリカでは常に「意見」が求められます。それも、一クラス十数名ですから、ひっそり隠れていることもできません（笑）。

―どうやって克服したのですか。

西川　セントポールズ校は全寮制で、二十四時間一緒に過ごしているため、自然と仲良くなります。その友人たちに何度も助けられました。あるショートストーリーを読む宿題が出された時は、夜、寮で、友人四～五名が、登場人物の役になりきって、劇仕立てで演じてくれたこともあります。これには感動しました。もっとも、それを見ても、ストーリーは半分ぐらいしか理解できなかったのですが……（笑）。

―アメリカ人は個人主義といわれますが、意外に親切な感じなのですね。

西川　アメリカでは、幼い頃から、チャリティの精神や重要性を教えられており、人のため、社会のために役立つことをするように言われて育っています。私がチャリティケースだったかどうかは別にして（笑）、人のために何かをしようという意識は強いと思います。

―寮生活は楽しかったですか。

西川　ええ。グループごとに担当の先生がいて、先生も寮で生活を共にしていました。一緒にミーティングをしたり、アクティビティを楽しんだり、このグループがひとつの家族のような雰囲気でした。

―セントポールズ校には三年間通い、卒業されたのですね。

西川　奨学金で通えるのは一年間なのですが、何とか英語のヒヤリングも克服できるようになっていたので、ここで帰国してはもったいないと思いましたし、アメリカの文化、宗教、思想を実生活の中でもっと深く理解したい思い、私費で通い続けることにしました。

政府要人の講演を数多く聞きジャーナリスト志望に

―セントポールズ校卒業後はどうされたのですか。

西川　実は、アメリカの大学に合格したのですが、向こうでは入学を一年間延期できる制度があります。それを活用して、いったん帰国しました。その頃は、頑張り続ける気力があまり残っておらず、少し休んで自分自身について考えたいという気持ちだったのです。そのまま日本の大学に進むのも、ひとつの選択肢でしたし、実際、迷いもありましたが、受験勉強をやり直すよりも、せっかくセントポールズ校を卒業したのだから、そのキャリアを生かしたいと考え、翌年、ジョージタウン大学に入学しました。帰国中の一年間は、東急ハンズで販売員のアルバイトをして、生活費を貯めました。私には現在の仕事よりもリテイルの方が向いているのではないかと思うこともあるほど（笑）、楽しい経験でした。

―ジョージタウン大学では、どの分野を専攻されたのですか。

西川　「スクール・オブ・フォーリンサービス」という外交官志望者なども所属する学部で、国際関係学を専攻しました。ジョージタウン大学は、クリントン元大統領の母校でもあります。私の在学中、ちょうどクリントン氏が大統領に選出された時で、就任直前に大学を訪問され、講演を聞くことができました。そのほか、政府要人の講演が頻繁に開催されており、政治、経済に興味を持つようになったことが、ジャーナリズムの世界に進もうと考えるきっかけになりました。

西川　洋子（にしかわ・ようこ）

1971年、東京都生まれ。本名：北野（旧姓・西川）洋子。1984年に成蹊小学校、1987年に成蹊中学校を卒業。成蹊高校入学後、セントポールズ校に留学し、同校を卒業。ジョージタウン大学で国際関係学を学び、大学卒業後、ロイター・ジャパンに入社。経済担当記者を経て、現在は政治・外交チームに所属している。ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院（SAIS）修士課程修了。

そこで、卒業後帰国し、ロイター・ジャパンの採用試験を受け、入社しました。

—そのまま海外で活躍する選択肢もあったと思いますが、帰国を選択した理由は何ですか。

西川　海外生活が長いと、逆に自分が日本人であることを強く意識するようになります。「このような場合、日本ではどうなのか」と聞かれることも少なくないからです。けれども、高校時代からアメリカで過ごした私は、日本の文化、社会に関する理解が不足しており、十分に説明することができません。このままでは「アメリカ人のような日本人」になってしまいそうで（笑）、一回ちゃんと帰国して、日本人として、自分の国のことをもっとよく知る必要があると感じたのです。

—入社後はどのような仕事に携わってこられたのですか。

西川　経済担当記者として、主に経済政策を担当し、官庁や日銀などを取材してきました。一年ほど前からは政治・外交チームに所属しています。

将来の夢は、紛争地の現地取材です。あまり注目されず、世界から忘れられ苦しんでいる人々の様子を記事にして、平和な社会で過ごしている人たちが、それを読んで、何かを感じとってくれるとうれしいですね。

チャンスを見逃さず チャレンジしてほしい

—成蹊学園時代に学んだことが、その後の活動に生きていると感じられることはありますか。

西川　私は、成蹊の校名の由来である「桃李不言下自成蹊」を、自分のなかで大切にしています。成蹊出身者は、相手の気持ちを思いやり、協力しようとする心を持っています。ジャーナリズムの世界も、個人プレーに見られがちですが、実際には皆で協力して、さまざまな情報交換を行うことで、はじめていい仕事ができるようになります。そうした協力する精神を忘れないようにしたいと考えています。

また、小学校の時にあった「凝念の会」で配付された中村春二先生の「やさしい心は機械の油」という言葉も印象的でした。皆がやさしくなれば、どんな組織もスムーズに動くようになるという意味でしょう。この言葉は、実社会の人間関係にも通じる素敵な言葉だと思います。

—セントポールズ校での経験も、大きな財産になっていると思います。

西川　海外で学んでよかったと思うことのひとつに、度胸がついたこと、恥をかくことに抵抗感がなくなったことがあります。それまでの私は多少見栄っ張りなところもあったのですが、英語力を克服していく過程の中で、間違っている部分はきちんと指摘されなければ前進できるものではないと考えられるようになりました。ジョージタウン大学三年生時に、一年間、ドイツに留学したのですが、その時にはもう、下手なドイツ語でもかまわないから、どんどん積極的に発言しようという吹っ切れた気持ちになっていました。

それから、先ほど申し上げたように、日本のことをもっと深く学ぶ必要があるという気持ちを持ったことも大きかったと思います。そして、海外で学んだ経験があるからこそ、世界のさまざまな文化や考え方を尊重し、理解しようとする意識が高くなったと思います。セントポールズ高校に行ったことで私の人生は変わりました。

—最後に、成蹊学園の後輩たちにメッセージをお願いします。

西川　留学だけでなく、小旅行でもいいので、できるだけ積極的に海外に出かけて、世界にはさまざまな人々が暮らしていて、多様な考え方があることを体感してほしいですね。

私の持論は、チャンスは、すべての人に共通に与えられているということ。アンテナを張りめぐらして、そのチャンスを見逃さないことが大切です。そして、いまが自分にとって絶好のチャンスだと感じたら、臆せずチャレンジしてほしいと願っています。（広報課）

大学・経済学部

主体的に学ぶ姿勢を身につけるために

組織行動論・人的資源管理論
義村 敦子（よしむら あつこ）
成蹊大学経済学部経済経営学科 教授

慶應義塾大学商学研究科博士課程修了。商学博士。1997年着任。専門は組織行動論および人的資源管理論。モチベーションを向上させる人材マネジメンのあり方について研究。科学技術者や医療従事者を対象にした実証研究を進めている。主な著書に『基礎研究者の職務関与と人的資源管理』（単著：慶應義塾大学出版会）、『組織のセルフマネジメント』（共著：白桃書房）など。

組織行動論・人的資源管理論とは

「試合に向けてモチベーションを高めていきたい」——大きな試合を目前に控えたスポーツ選手が発言をするのを最近よく耳にします。このように身近になったモチベーション（動機付け：目標達成に向けて取り組む意欲のプロセス）やリーダーシップ（組織目標達成に向けて集団をまとめ導く力）など、組織における人間の行動や心理について研究するのが組織行動論です。

人的資源管理論では、ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源のうち、最重要なのはヒト（＝人財）であると考え、働く人のモチベーションを引き出す人財マネジメント方法を模索しています。仕事手順のマニュアル化はファストフード店で接客をするには有効ですが、なぜ新製品を企画するには有効ではないのかなど、人財マネジメントの理論や施策について学びます。

学生の意見を求める授業

ともすると教員から学生への一方的なコミュニケーションになりがちな大教室の授業ですが、学生が理論や知識を覚えるだけでなく、自分の頭で考えて主体的にそれらを活用できるように指導することを目標にしています。「人間行動と組織」では、大学における大学生の行動と心理について受講生自身が考える材料を提供するよう心がけています。例えば、キャリアや職業選択に関する諸理論を学んだ後には、それらの知識を生かして、自分のキャリアプランを実現させるために現在すべき勉強や活動は何かを問う授業内レポートを課したり、モチベーションに関する理論を学んだ後には、学生各自が実際に悩んでいる二つの進路（大学院進学と企業就職など）について、モチベーションの大きさを比較する作業を行います。「人的資源管理」では、企業が成果主義的な報酬制度を導入する際はどのようなことに留意すべきかなどを具体例を示して解説します。フリーターや日本の労働力人口減少に関してはデータ

をなるべく豊富に提示しながら現状を解説した上で、各自が対策案を考えるよう促します。

実践の場としての少人数演習

演習は、学生が理論や知識を活用して主体的に学習活動をする場と位置づけています。「日本発の組織イノベーション」を統一テーマにした三年次の応用発展演習では、関心を持った組織が現実の課題を克服して格段と良くなるためにはどうすればよいかについて提言をします。そのために、自主的に編成した実習班で、企画書作成→アンケート調査実施→データ分析→考察→口頭発表→報告書作成を実施します。これらのプロセスを通じて、チームワークの難しさや面白さ、リーダーシップの大切さ、主体的に問題解決法を考える重要さを体験してくれることを願っています。四年次にバージョンアップできた調査研究は「卒業研究」の成果として厚生労働省や成蹊大学キャリアセンターなど実際の提言先に提出しています。

ここに歴史がある　**百年十話**　ここから歴史が始まる

2012年　1912年

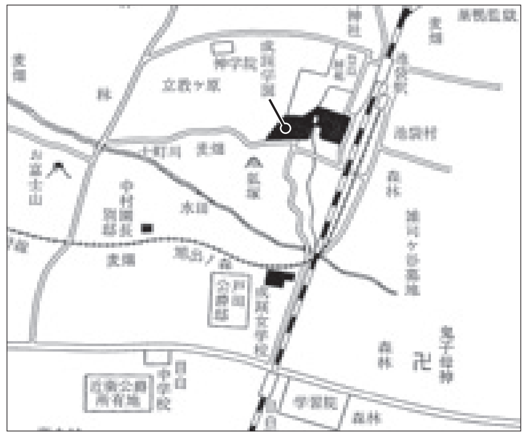
創立100周年　第二話

成蹊実務学校の開校

火災を契機に、信念の教育者に生まれ変わった中村春二。いよいよ成蹊学園の前身、成蹊実務学校の誕生です。

開校に向けて

自らが理想とする教育の実現のために、成蹊実務学校の設立を決意した中村春二は、一九一一（明治四十四）年十二月、全国の小学校長に「設立趣意書」を郵送した。そこには、中村の熱い思いが込められていた。すなわち、「教育こそが社会を変えうる力である」との信念のもとに、「無月謝、教科書貸与」「定員一学級二十名」「活きた学問の指導」「道徳の実践」など、成蹊教育の特色が明記されていたのである。画一的な知識詰め込み型教育が主流になっていた当時にあって、少人数制の人間教育をめざす中村の理念は、新鮮で画期的なものだったといえよう。設立趣意書に賛同し、入学を希望する生徒は百七十一名に達し、試験の結果、一年生二十五名、二年生十八名の入学が決定した。



池袋駅周辺（大正9年）

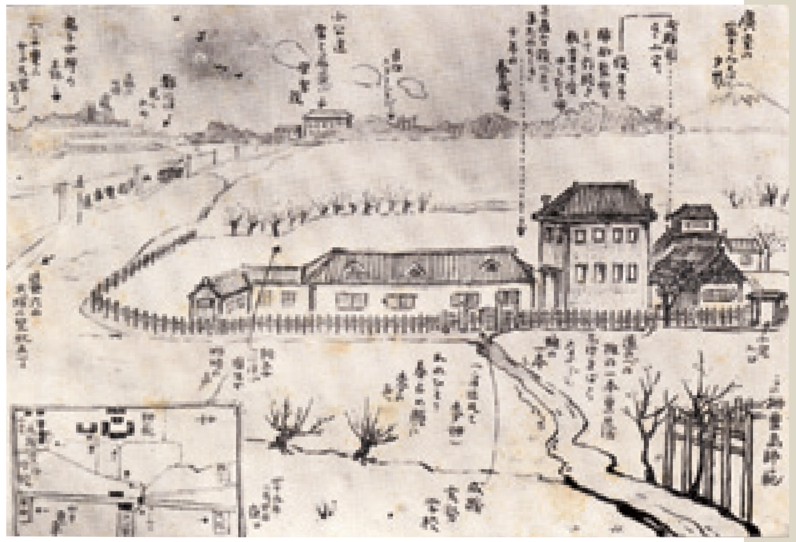
開校十日前の危機

こうして新しい入学生も決まり、開校式を十日後に控えた一九一二（明治四十五）年三月二十三日、大事件が起こった。午前零時半、隣接する豊島師範学校の寄宿舎から突然火の手が上がり、火は折からの烈風に煽られて、またたく間に燃え広がった。火の粉は成蹊実務学校の新校舎にもまともに吹きつけ、紅蓮の炎は地を這うように麦畑を越えて平屋建ての校舎に燃え移り、やがて本館を包み込んでいった。中村は、塾生らの協力を得て、書籍室に保管されていた貴重な書籍や資料を死にもの狂いで搬出した。火の見やぐらの「すりばん」がけたたましく打ち鳴らされ、手押しの消防車も駆けつけてきたが、強い火勢に手の施しようもなかった。半年を費やして建てられた新校舎は、みるみるうちに灰燼と化し、そこには延焼をまぬがれた寮一棟を残しただけの、見るも無残な光景が広がっていた。成蹊実務学校は開校前から危機に陥ってしまったのである。

不屈の精神で、一週間後に仮校舎再建

焼け跡にまる一日たたずんで瞑想していた中村であったが、ここから彼の不屈の精神が目を覚ます。すべてを予定どおりに遂行するという一大決心をしたのである。「教える者と、学ぶ者との心さえ通えば、たとえ野原に立っていても教育はできる」。こう決意すると、早速、新校舎の再建を計画した。

当時の事情を中村は、火災の二日後「紅蓮の舌」と題して次のように記している。「人生多事、災厄頓挫はもとより期するところと思ふと、ふと原の青草が目にとまった。あゝ冬焼かれた草原も春ともなれば又芽ぐんで来たのである。焼かれたままでは草にも劣ってゐる。家は焼き尽されたが、私の志は決して祝融（中国の火を司る神）氏の自由に任せない、と思った」。



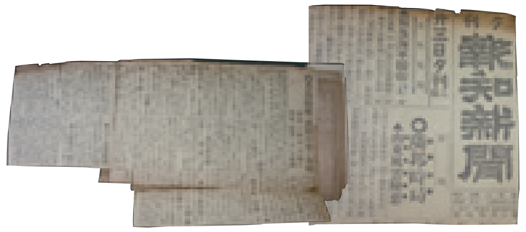
中村春二のスケッチ、火災類焼前の成蹊実務学校（明治45年3月）

※中村は新校舎に「正直な役に立つ、末（すえ）たのもしき少年の養成所」と注を加えるとともに、学校正門と自宅門との間の椎の若木には「道のべの椎の一本葉蔭なお　まばらなれども椎の一本」と歌を添えている（雑記参照）。手前右には隣接する豊島師範学校の柵が見える。

幸い、数週間前に入っていた火災保険が下りることになったこともあって、中村は、校舎の建築を依頼した大工の棟梁・吉野梅太郎を呼んで、直ちに焼け跡を片づけ、新校舎を再建するように頼んだ。棟梁はしばらく考え込んでいたが、「ようがす、やってお目にかけましょう！」と、江戸っ子らしく言い切った。

こうして、焼け跡の片づけさえ手がつけられていない豊島師範学校を尻目に、わずか一週間で仮校舎が再建されたのだった。

『こかげ』第1巻第7号表紙（明治45年5月）



火災の様子を伝えた「報知新聞」記事（明治45年3月23日付夕刊）

火災を契機として、信念の教育者に

成蹊実務学校の延焼は、新聞にも大きく報道された。開校式に招待されていた人々は、この学校は取りやめになるか、秋の新学期まで延期になるだろうと誰しもが考えていた。ところが、中村は三月二十五日付けで「すぐ仮校舎を建てて予定通りに授業を開始致します」という挨拶状を各方面に送り、関係者を二度びっくりさせたのであった。

成蹊実務学校第一期入学生（明治45年）　※最後列中央が中村春二

予定どおり開校式を行うという通知を受けた賛助員の岩崎小弥太氏は大いに喜び、早速旅行先から、「カイコウシキヲイワフ、リソウニマイシンサレタシ、コヤタ」と電報を打ってきた。

同じく賛助員の今村繁三氏は、「この火事で、中村君は全く人が変わった。どちらかといえば、理想家肌の文学青年が、急にたくましい鉄人に変わったようだ」と評した。中村は、羅災を契機として信念の人に生まれ変わった。雑誌『こかげ』に掲載された中村の一文「如何にして我等の責を果さん」は、彼の決意を表明したものであったといえよう。

困難を乗り越え、開校へ

そして四月二日、仮校舎において「成蹊実務学校」の入学式が予定どおり執り行われた。中村は、新入生に対し、「仮校舎はみすぼらしいが、ここは桃李の里である。〝桃李物言わずといえども、下自ら蹊となす〟という言葉を味わってほしい。自分を磨いて美しい人格をつくれば、その人はたとえ何も言わなくとも、自ら世間に認められるようになる」と、諭した。

火災後、仮校舎での小林一郎先生による授業（明治45年）

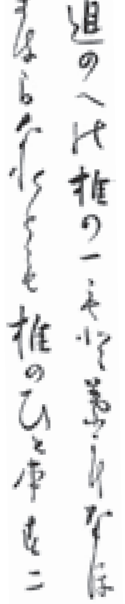
以後、三月二十三日は「火災記念日」として成蹊にとって大いに記念すべき日となった。中村は「この火災は今から考へると我々のために却って祝福すべきものである。我々は火事のために物質的には多大の損失を被ったが、精神的には却って大いに利益を得た訳である。この意味に於いて火災記念日を一種の祝日としてかくの如く祝ふのである」と述べている。

成蹊学園では、現在も中村が教育に対する不退転の決意を固めたこの日を、建学の理念を継承するに最も相応しい日であるとし、「建学の日」として継承している。

●次回のテーマは「成蹊実務学校における教育」です。

（企画・監修　創立一〇〇周年記念行事推進室）

雑記



この和歌は、中村春二先生が成蹊実務学校の校舎が新築落成した折、敷地内の一隅に見出した椎の若木をみて詠じたものである。中村先生はこの弱々しい一本の椎の若木こそ自分の導く教え子の姿であり、これを逞しい椎の大木に育てあげることこそ教育者としての自分のつとめであると痛感されたのであろう。「たとえ若木であっても決しておろそかにはできない。そこにはすでに尊い人格があり、この人格を認め、その大成を期すことこそ教育である」と感じとられたに違いない。

成蹊学園創立
100周年記念
事業特集

part 02

成蹊大学 法科大学院

成蹊の伝統である少人数教育により、学生の個性を尊重した指導を実践

広く社会人にも門戸を開き、年代や経験の多様性に富んだ仲間とともに学ぶ。高い倫理観を養い、理論・実務・人格のバランスのとれた法曹を育成。

▲臨場感あふれる実習が展開される「模擬法廷」

画一的な指導を排除し学生の個性を尊重

二〇〇四年度に誕生した法科大学院は、成蹊教育の特色である、個性を重視し、人格を成長させることを、法曹教育においても実現することをめざしています。

「全員に同じように画一的な指導を実施するのではなく、一人ひとりの個性に応じた、いわばオーダーメイド的な教育を展開しています。一学年の定員が四十五名（前年度までは五十名）で、専任教員一名に対して学生七・一名という、法科大学院設置基準（一対十五）を大きく上回る少人数だからこそ可能な教育といえます」（研究科長・萩澤達彦教授）。

個性重視の指導が新司法試験合格に結びつくことも少なくはありません。

「ある修了生は法学部出身ですが、大学時代に司法試験向けの特別な勉強はしていませんでした。そのため、法律的な文章作法に慣れておらず、司法試験受験経験者が多い一期生の中で、彼のゼミレポートは異色な文章になっていました。けれども、私はそれも個性と考え、あえて大幅な修正をしませんでした。すると、ゼミの最終盤では彼のレポートを、そのままの文章で模範レポートに選ぶようにまでになっていました。その結果、彼は司法試験に一回で合格しました。もし一定の型にはめようとする指導をしていたら、おそらく彼の個性は埋没してしまっていたでしょう。これは、一人ひとりの個性を尊重する成蹊ロースクールの教育が功を奏した例だと思います」。

多くの法科大学院が、履修できるゼミは年間一コマ程度であるのに対して、成蹊の法科大学院では四〜五のゼミに参加できる点も特色です。

「ゼミでの議論を通して、法律家に必要な論理的思考力が高まりますし、学生同士で競い合う雰囲気が生まれており、高い教育効果を生んでいます」。

医師、企業の法務部長など多彩なキャリアの学生が集う

また、夜間社会人コースには、裁判所書記官、司法書士、公認会計士など、法曹隣接領域で活躍中の人のほか、医師、企業の法務部長、IT企業社長、元外交官、テニスのインストラクターなど、多彩なキャリアを有する学生が集まっています。たとえば、ある信託銀行の法務責任者であった修了生は、成蹊の法科大学院で学び、新司法試験に合格した後、職場に復帰し、現在は企業法務経験を生かして本学の講義を非常勤講師として担当しています。

「一般学生と社会人学生が一緒に学ぶ授業もあります。社会人学生の集中力は非常に高く、授業は緊張感にあふれています。すでに社会の第一線で活躍していながら、さらなる挑戦を続けようとする社会人学生の真剣な姿が、一般学生にも大いに刺激になっています」。

二十四時間利用可能な専用机のある自習室を完備

施設・設備の充実度も特筆されます。法科大学院の専用棟には、大小の講義室、演習室、模擬法廷などを設置。二階に専用机のある自習室も完備されており、一年中、二十四時間開放。正月ですらも勉強している学生の姿が見られます。

「社会人学生の中には、通勤前や、授業が終わってから就寝直前まで自習室で勉強したいということで、キャンパスの近くに引っ越してきた学生もいます」。

また、二階には専用の図書室があり、法学基本書や法令・判例集などを備えています。こちらも二十四時間利用可能で、学習に役立てられています。

▲学生一人ひとりのゆったりとしたスペースを確保した自習室

さらに、忙しい社会人学生のバックアップができるよう丸の内に「成蹊サテライト・オフィス」を設置。吉祥寺キャンパスと双方向で回線がつながっており、オンラインで授業に参加し、質問することもできます。必修科目の授業では、定員二十名の部屋が満席になることもあります。

▶オンラインで授業に参加できる「成蹊サテライト・オフィス」

▲マイクを使い、質疑応答も可能

安定した合格実績をキープ学生の満足度も高い

こうした教育体制は、学生から高く評価されています。

「昨年、第三者評価機関による認証評価を受けた際、担当者から『学生への個別ヒアリングで、不満の声がほとんど聞かれなかった。これだけ学生からの信頼を得ているケースは初めてだ』と言われました。今後も、この信頼関係を大切にしていきたいと考えています」。

この背景には、新司法試験の合格実績が安定していることも関係しています。

「司法制度改革の当初の構想では、法科大学院修了者の七割程度が新司法試験に合格することになっていました。ところが、実際には新司法試験の合格率は年々低下。二〇〇九年度は全国平均二十七・六％にまで落ち込んでいます。そんな中で、成蹊の法科大学院は毎年コンスタントに十五名前後の合格者を輩出しており、大健闘しています。柔軟でバランス感覚に優れ、人の痛みが分かる成蹊出身者らしい法曹人として、多彩な分野での彼らの活躍を期待しています」。

安定した合格実績を維持するために、新たな教育システムの導入も構想されています。

「新司法試験が行われるのは五月ですから、修了後二カ月間のフォローをどうするかが、重要なテーマになります。また、一回目の挑戦で不合格になった人へのサポートにも取り組みたいと考えています。すでに修了生自習室を設け、安価で開放しているほか、修了生が授業を聴講できる制度も用意していますが、もっと充実した支援をめざす必要があります。今年度中にOBを中心とした組織的なサポート体制を確立したいと考えています」。

（企画・監修 創立一〇〇周年記念行事推進室）

新司法試験の合格者数推移

	合格者数
平成21年度	14
平成20年度	17
平成19年度	16
平成18年度	11

この方にインタビューしました

萩澤達彦 法務研究科長

新司法試験に合格した修了生のメッセージ

多様なバックグラウンドの学生による刺激的な学びの場

〈弁護士〉
松尾 明弘さん
東京大学法学部出身
法科大学院06年3月修了
06年度新司法試験合格

仕事を続けながら、新司法試験に挑戦しようと決意。夜間や土曜日に授業が開講されており、社会人の受け入れに積極的な成蹊ロースクールを選びました。

最も印象的だったのは、多様なバックグラウンドを有する学生が集まっていたこと。授業以外でも、さまざまな分野の専門的な話題に触れることができ、視野が広がりました。当時の友人たちとは、法曹となった現在でも、公私ともに刺激を与え合える関係を築いています。また先生方との距離が近く、法律家としての考え方や検討の視点を肌に触れて知ることができたのは、貴重な経験です。

アットホームな雰囲気が魅力修了後まで手厚くサポート

〈弁護士〉
髙島 光弘さん
成蹊大学法学部出身
法科大学院06年3月修了
07年度新司法試験合格

高校、大学と成蹊学園で学び、自由でのびのびとした校風が大好きだったので、ロースクールも成蹊しかないと思っていました。成蹊学園の特徴であるアットホームな雰囲気は、ロースクールにも着実に受け継がれています。先生方には、在学中はもちろん、修了後まで手厚くサポートしていただきました。私は、1回目の新司法試験では不合格だったのですが、その後、下森定先生から、答案作成のゼミに参加しないかと手紙をいただき、修了後も在学生と一緒に学ぶことができたのです。それが翌年の合格につながったと思っています。

法科大学院WEB SITE ▶ http://www.seikei.ac.jp/university/law_faculty/law_pstg/

大学の近況

学位授与式

三月十九日、二〇〇九年度学位授与式が行われました。色とりどりの袴に身を包む卒業生で満員となった会場の体育館では、卒業生一人ひとりが学生生活が終わることへの寂しさとともに、新たな旅立ちへの期待に目を輝かせていました。
教職員、保護者、後輩たちの見守るなか、二〇〇九年度は卒業生（千七百四十七名）・修了生（百四十三名）が本学を巣立ちました。

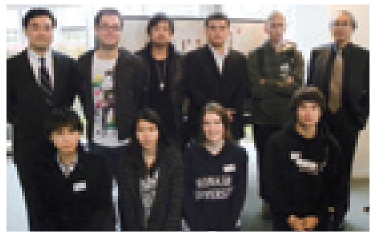
入学式

桜も満開となった四月三日、二〇一〇年度入学式が行われました。晴れ晴れしいこれからの新生活を祝うかのように、雲ひとつない快晴で、心地よい日差しが新入生を包み込んでいました。学内では新入生勧誘に励む在学生の声で賑わい、スーツ姿の新入生たちは、戸惑いながらも懸命に先輩たちの話に耳を傾けていました。

今年から全学共通科目として「成蹊教養カリキュラム」が導入され、カリキュラム体系が一新されました。本年度入学した学部生（千八百十四名）は、大学院生（百八十六名）とともに、成蹊での新たな一歩を踏み出しました。

新入協定留学生歓迎式

四月十二日、国際交流会館で新入協定留学生歓迎式が行われました。前日に降った季節はずれの雪が残ったものの、当日は快晴に恵まれました。多くの学生が足を運び留学生を歓迎しました。今期新入の協定留学生は八名で、成蹊大学で半年または一年間学業に励んでいます。



名誉教授称号記贈呈式

五月十九日、大学十号館大会議室において名誉教授称号記贈呈式が執り行われました。名誉教授の称号は、本学の専任教授として、満二十年以上勤務し、かつ、教育上または学術上特に功績のあった者に対し贈られ、毎年この時期に贈呈式が行われています。
今年度新たに名誉教授となられたのは次の四名の先生方です。

- 髙木 新太郎 先生（経済学部）
- 渡辺 健一 先生（経済学部）
- 中里 明彦 先生（文学部）
- 松下 満雄 先生（法務研究科）

体育会新入生歓迎会

五月二十一日、学園本館大講堂にて体育会新入生歓迎会が行われました。当日は体育会伝統の正装を身にまとった新入生で、会場が熱気に包まれ、学長・学生部長より激励の言葉が贈られました。

学内陸上競技大会

五月二十八日、学内陸上競技大会が、リニューアル後初となった「けやきグラウンド」を会場に開催されました。昨年度は悪天候により、予備日も含めて中止となってしまいましたが、本年度は天候にも恵まれ、まさにスポーツ日和となりました。
通称「学陸」と呼ばれる本行事は、リレー、走り幅跳びなどの陸上競技大会の要素と障害物競走、綱引きなど運動会の要素とを兼ねた内容となっており、今年度も体育会・文化会団体やクラス・ゼミ単位での多数の参加がありました。大会終了時には、学長より優勝団体にトロフィーなどが贈られ、学生たちの晴れ晴れとした表情を見ることができました。

四大学運動競技大会（四大戦）闘魂決起大会

伝統ある年間行事の一つ、成蹊・学習院・成城・武蔵の四大学で競い合う四大学運動競技大会（通称四大戦）が、十月十五日から十七日まで、学習院大学を会場に開催されます。
それに先立ち、六月八日、本学において闘魂決起大会が開催され、晴れわたる空の下、應援団長のエールが構内に響き渡りました。
四大戦は、昭和二十五年に第一回大会が行われて以降、一度も絶えることなく半世紀以上の間続けられてきた伝統ある行事です。
体育会を中心とした正式種目はすでに対戦が始まり、現在までにスキー男子、スキー女子、漕艇、アメリカンフットボールの四種目が終了しています。総合では現在三位となっています。
優勝杯を学内に飾れるよう、今後の活躍にも期待したいと思います。

清水建設奨学金贈呈式

六月二日、本館三階三〇二会議室において、清水建設奨学金贈呈式が行われました。今年度は二十七名に給付され、学長より一人ひとりに給付証が手渡されました。清水建設奨学金は、全学部三・四年生を対象に、清水建設様からの寄付金を資金として実施されているもので、これまで多くの学生に利用されている奨学金制度です。

理工学部　一日体験科学教室

理工学部では、科学技術に関心を持ち、好奇心が旺盛な高校生を対象として、本学で行われている研究の一端を紹介しながら、さらなる科学に対する興味を持っていただくために「一日体験科学教室」を開催します。最新の科学と技術に触れてみたい方はぜひご参加ください。日程は次のとおりです。

- 七月十八日（日）・二十五日（日）
- 時間：九時半～十六時半
- 対象：高校生・高卒生・高校の教員の方々
  各日 百二十名

事前のお申し込みが必要です。詳細については左記大学ホームページをご覧ください。

- ホームページアドレス
  http://www.seikei.ac.jp/university/rikou/event/index.html

オープンキャンパス日程

今年度のオープンキャンパスは、左記のとおり開催されます。当日は、キャンパス見学ツアーや体験講義、成蹊大学ガイダンスや就職ガイダンスなど、成蹊をより深く知るためのイベントが多数行われます。教職員や在学生と直接触れ合うチャンスも多く、成蹊の魅力と雰囲気を体験できる内容となっています。高校生を主な対象としていますが、どなたでもご参加いただけます。

- 第一回　七月三十一日（土）・八月一日（日）
- 第二回　十月三日（日）
- 第三回　十一月二十一日（日）（大学祭期間中）

各回とも十時より受付開始で十六時半受付終了予定です。事前の申し込みは不要です。時間内の入退場は自由です。

むさしのFM（78.2MHz）

武蔵野地域自由大学情報

昨年度に引き続き、武蔵野市のコミュニティFM「むさしのFM」において、「武蔵野地域自由大学情報」が来年3月までの予定で放送されています。この番組は本学のほか、亜細亜大学・東京女子大学・武蔵野大学・日本獣医生命科学大学が1週間ごとに担当し、製作しており、本学では、引き続き成蹊ラジオクラブの学生が番組を制作しています。2年目を迎える本年は、学内広報誌「ZELKOVA」に掲載されている「成蹊探訪」をモチーフにしたコラムや、地域に根付いた本学のイベント・最新情報を発信しています。放送日など概要は次のとおりです。

放送時間	毎週日曜日　9:45～9:50
再放送	毎週月曜日　11:35～11:40
成蹊大学担当分	7月18日・8月22日・9月26日・10月31日・12月5日・1月9日・2月13日

※放送日は変更になる場合があります。
※むさしのFMは武蔵野市・三鷹市内をエリアとしていますが、杉並区・練馬区・西東京市の一部など隣接した区・市でもお聴きいただくことが可能です。

中学・高等学校の近況

中高入学式と新入生週間

四月七日、学園本館大講堂で入学式が挙行されました。この日は午前十時より中学校、午後一時半より高等学校の順で入学式が行われました。中学校の入学者数は国際学級入学生、中学二年帰国編入生を含めて二百七十名、高等学校の入学者数は高校二年への入学者を含めて三百三十三名でした。この春は気温の低い日が続いた影響で桜が長くもち入学式でも新しく始まる学校生活を出迎えてくれました。

入学式から授業開始まで、例年「新入生週間」として各学年のオリエンテーション、防災訓練、新入生歓迎会などが行われ、新入生をはじめ中高生が新しい学年に早く慣れ、円滑な学校生活を送るための準備期間としています。四月十二日より今年度の授業が開始されました。

中学校遠足と高等学校体育大会

ゴールデンウイーク明けの五月七日、中学校遠足と高等学校体育大会が行われました。

中学校遠足のコースは、一年生が景信山、二年生が陣馬山、三年生は修学旅行グループ行動の練習として東京国立博物館と上野界隈です。この日は天候が不安定で、本格的に山に入る手前で雨が降り出し、一年生と二年生はやむを得ず途中で中止して引き返すことになりました。三年生は午前中は東京国立博物館でスクールプログラムの説明を聞いた後、館内見学、その後は修学旅行での京都市内グループ見学の事前練習として、奏楽堂、旧岩崎邸、三菱史料館、神田明神などをあらかじめ計画したルートに従ってグループごとに見学し、上野公園の西郷像前でチェックを受けて解散しました。

高等学校体育大会は、けやきグラウンドで開会式を行い、ソフトボール、サッカー、バスケットボール、バレーボール等球技を中心とした競技をクラス対抗で行いました。新しい学年になって初めてクラスとしてまとまって行動する行事のために、各クラスとも、オリジナルのTシャツを揃え、試合に、応援に積極的に参加し、クラスの団結を高めていました。この日は時折強い雨が降り、大会の続行が危ぶまれる場面もありましたが、すべての競技を予定通りこなし、大きなけが人もなく、小雨の中の閉会式で一日の日程を終了しました。

中学校修学旅行　講演会・見学会

五月二十四日から二十八日の四泊五日の日程で中学校修学旅行が行われました。昨年は新型インフルエンザ流行の影響で日程をずらした上に短縮するなど不十分な形での実施となってしまいましたが、今年は天候がやや不順であったものの全日程を予定通り行うことができました。修学旅行は前半二泊を奈良、後半二泊を京都に宿泊しています。移動日に当たる三日目、今年は午前中に比叡山延暦寺を訪れ、午後は友禅染、生菓子作り、茶摘み、北山杉丸太磨き、清水焼絵付け、京扇子絵付け、箸作りなどの体験学習を行いました。また四日目は七、八人のグループごとに、訪問先をあらかじめ研究して京都市内を丸一日見学してまわりました。コースの中で京都らしい昼食がとれる店を予約し、また午後には甘味処での休憩も計画するなど、歴史の町京都の一日を自分たちの足と舌で十分に堪能することができました。

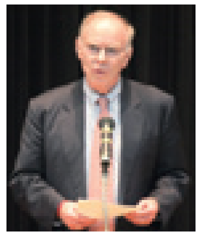
中学三年生が修学旅行中、一・二年生は講演会と見学会を行いました。一年生の講演会は、「キミは大丈夫?」~メディア漬けで壊れるこどもたち~と題して、NPO法人子どもとメディア代表理事の清川輝基先生のお話で、中学生に蔓延しているゲーム機や携帯ゲームなどに夢中になりすぎることが子どもの生活や脳の発達に与える影響の大きさと危険性を学びました。二年生の講演会は「コミュニケーションと自己分析」のテーマで、これまでもお話しいただいたことのある心理カウンセラーの林恭弘先生から友人関係のトラブルで悩むことの多い中学生の現状を踏まえて、コミュニケーションや自己分析の大切さを学びました。

翌日の見学会では、一年生が劇団四季―四季劇場での「サウンド・オブ・ミュージック」鑑賞を、二年生は校内で、卒業生の雅楽師・東儀秀樹氏による「雅楽の魅力~東洋と西洋の融合」と題したお話と演奏を楽しみました。大教室で行われた東儀氏のお話と演奏では、ご自身の成蹊中高生時代の体験を踏まえた後輩に対する愛情溢れるアドバイスなどをうかがったり、東儀氏の演奏だけでなく、希望する中学生に実際に笙や篳篥(ひちりき)の音を出させていただいたりして、楽しい一時を過ごすことができました。

成蹊・セントポールズ交流六十周年行事

一九四九年に槇原稔氏(学園理事・三菱商事元社長・会長)が米国セントポールズ校(SPS)に留学され、同校と成蹊との交流の端緒を開かれて以来、六十年の長きにわたって交流が継続してきたことを記念して、三月九日に記念式典、記念講演会とレセプションが開かれました。この日は冷え込みが厳しく夕刻からは大雪という天候でしたが、六十年前に槇原氏を送り出した元校長の清水護先生(百一歳)はこの行事に通して参加され、そのお元気さに一同驚嘆していました。

第一部の記念式典では、中高の両角校長とSPSのマシューズ校長それぞれのごあいさつに続き、SPS留学でマシューズ氏に教えを受けた西川洋子さん(ロイター記者)が、わかりやすい英語で会場の小中高校生に留学体験を語り、最後に成蹊中高生の和太鼓演奏が披露されました。



第二部は清水護英語教育助成資金講演会として、清水護先生のご子息で三人目のSPS留学生である清水義明プリンストン大学名誉教授に「グローバルな共通語としての英語とその習得法」というタイトルで講演していただきました。この中で、米国で日本美術史研究を続けられるなかで成蹊ゆかりの方々との繋がりを強く感じられた数々の体験が紹介され、あわせて高校時代に英語を習得することの意義が強調されていました。また、後のレセプションの席では、清水先生からご専門の著書多数を中高の図書室に寄贈していただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第三部のレセプションは大学十号館に会場を移し、七十名ほどの関係者を集めて和やかに行われ、両校交流の更なる発展を誓いました。

六月には両角校長がSPSを訪問し、両校交流六十周年行事を閉めくくることになります。

武蔵野市ゴミ会議参加 ~生徒会の取り組み

高等学校生徒会及び蹊祭実行委員会メンバーが武蔵野市ゴミ意識ミーティングに参加しました。以下、参加した生徒からの報告です。

参加者レポート

(高校三年　及川美紅)

二月、高等学校生徒会環境担当と蹊祭実行委員会環境パートのリーダー三名で、武蔵野市の高校生ごみ意識ミーティングに参加してきました。ここには市内の各高校から十数名の高校生が集まっていました。

会の始まりは「三十秒間でごみという単語から連想される言葉を思いつく限り書き上げましょう!」という指示でした。書き上げてみると、その個数や内容から日ごろのごみに対する自己の意識の高さ低さをそれぞれに見つめ直すことができました。

次に、二〇〇九年度の文化祭で取り組んだごみに関する工夫や日頃学校で行っている取り組みについてまとめて発表しました。文化祭で大活躍したパートリーダーの奥住さんとレイアウトのセンス抜群の生徒会役員の世継くん、同じく役員でアルミ缶回収に情熱を持つ私の三人が力を合わせて模造紙にまとめ、発表しました。ポイントは分別回収の徹底でした。文化祭でのごみステーション設置や体育大会での運動委員を中心とした分別回収実施、普段のアルミ缶回収の状況を発表しました。その後の交流会で他校の生徒から「ごみステーションという取り組みはすごいですね、感動しました。アルミ缶回収BOXのフタの色の工夫がいいですね」と言われました。

他校の発表を聞くと、考えもしなかったさまざまな取り組みに驚き、感動しました。中でも次の文化祭でぜひ私たちの高校でも取り入れたいと思った取り組みを一例挙げます。吉祥女子高校の「プラスチック段ボールの導入」です。これは文化祭で大量に使用し、かさ張って処理の大変な紙段ボールの代わりに、軽くて何度でも使えてコンパクトにまとめることのできるプラスチック段ボールを使用する、というものでした。これは私たちの学校でも取り入れることができるだろうし、ガムテープも節約できるし、何より何度も使える点に魅力を感じました。また、ごみ処理に対する意識でなるほど!と思ったのは藤村女子高校の「ごみはどうやってもでてしまうのだから少なくともひとつでも減らそう、そして出てしまったごみは資源にしよう!」というものでした。

この報告会に参加して各校の発表や考えや意気込みを聞いてとにかく感激しました。どの学校の参加者も意欲的に、楽しみながら考え、たくさんのアイデアを出していろんな工夫をしている姿勢が、誠実でとてもかっこよかったからです。私もそうありたいと思いました。どんな取り組みもそうあることでみんなの協力を得ることができるだろうからです。

運動部・文化部の活躍

●中学スキー部

第29回南関東ブロックKCJスキー選手権　男子チルドレンⅡ部
〈回転競技〉 瓦井海年(2年)　準優勝
〈大回転競技〉 瓦井海年(2年)　準優勝

第29回南関東ブロックKCJスキー選手権　男子ジュニア部
〈大回転競技〉 大高裕生(3年)　5位入賞

●高校スキー部

第48回東京都高等学校スキー大会
〈回転競技〉 白簱あず沙(2年)　選考会準優勝 → 本大会進出
〈大回転競技〉 白簱あず沙(2年)　選考会準優勝 → 本大会進出
本大会 → 5位入賞

東京都高等学校春季スキー大会
〈回転競技〉 白簱あず沙(2年)　選考会優勝 → 本大会進出
本大会 → 5位入賞
〈大回転競技〉 白簱あず沙(2年)　選考会優勝 → 本大会進出
本大会 → 5位入賞

小学校の近況

平成二十二年度・小学校入学式

成蹊小学校の新年度の始まりは四月五日でした。始業式に続いて入学式を行いました。

今年度の入学者は、新一年生百十二名、国際学級新四年生十二名の計百二十四名でした。

入学した子どもたちは、遠足や運動会などの行事の中でも成蹊小学校の生活にすっかり溶け込んだ元気な姿を披露しました。一人ひとりの健康で個性豊かな今後の成長を心から期待しています。

春の遠足

四月三十日、全学年が遠足を行いました。

- 一年生＋六年生　井の頭自然文化園
- 二年生　高尾山
- 三年生　高尾山
- 四年生　御岳山
- 五年生　大塚山

六年生が一年生のお世話をする歓迎遠足と、学年別の鍛錬遠足が春の恒例行事となっています。遠足の様子は、小学校ＨＰで紹介しています。

甲南小学校との教員相互交流事業

成蹊小学校と神戸の甲南小学校は、二〇〇五年十一月に教員の交換派遣に関する覚書に調印し、二日間の短期派遣を年三回実施することからスタートしました。（学園広報64号・二〇〇七年冬）

この事業も六年目を迎え、両校の教員の大半がお互いの学校を訪問し、授業を参観したり、実際に担当したりする取り組みを続けています。

五月末には、甲南小学校から運動会準備期間中の成蹊小学校に三名が訪問、成蹊小学校からは、施設再開発工事が終了した甲南小学校新館使用開始日に四名が訪問しました。

吹き抜けの明るい玄関の正面に位置する多目的ホールには、百二十名を収容できる立派なシートが備えられ、舞台や照明も設置された本格的な造りとなっていました。甲南小学校の五年生に本校教員が太鼓を実演し、多目的ホール初演目となりました。また、これも新装成った音楽室では、本校教員が「サンバ・ダ・成蹊」を披露し、甲南小学校の子どもたちと一緒に楽しいパーカッションの時間を創り出していました。今後、成蹊小学校のクラブ学習の太鼓部が甲南小学校を訪れたり、「サンバ・ダ・甲南」が誕生して双方の子どもたちが交歓したりする交流事業に発展することを期待しています。

成蹊の建学の精神を学ぶ

成蹊小学校では、三年生三学期の社会科で、成蹊の成り立ちや創立者中村春二先生を学ぶ時間を持っています。昨年度からは、学園史料館の協力を得て、高学年で「成蹊の建学の精神を学ぶ」という特設時間をこみちに加えました。この時間の様子を子どもたちの日記から一部紹介します。

四月二十一日の日記より

今日の三時間目はこみちで、学園史料館に行きました。そこで昔の成蹊学園の様子のフィルムを見せてくれました。

中には授業のシーンや遊びのシーンもありました。そして今はない剣道などの授業もありました。女子は校庭で遊んでいたそうですが、男子は、校庭の裏を走っている機関車などを見学していたそうです。そして当時は校内着も無くて、制服で遊びまわっていたそうです。気がついたのですが、授業といっても体操や園芸、草木の観察など室内の授業があまりありませんでした。

その後、蓄音機で中村春二先生の声の心の力の第一章を聞きながら、一緒に唱えました。蓄音機はＣＤとは一味違い、不思議な感じがしました。しかも、僕が思っていたよりもとてもゆっくりでした。雑音ばかりだったのに、なぜかそこには中村春二先生がいるようでした。そして、中村春二先生の声を聞いたことがないのに、なつかしいような感じがしました。今日のこみちの授業で、ぼくは、昔の成蹊学園をもっと知りたいと思いました。

成蹊小学校に入学した子どもたちの最初の学びは「凝念」の所作です。こうした凝念法や心力歌とともに、創立一〇〇周年を前にした原点回帰としての意味も込めて、成蹊人としての自覚を促す日常的な指導を一層大切にしたいと考えています。

夏の学校

「夏の学校」は、創立以来の伝統的教育行事です。今年も、六月初旬の二年生と四年生からスタートしました。

- 一年　箱根（七月十六日～十八日）
- 二年　箱根（六月八日～十一日）
- 三年　箱根（七月十九日～二十三日）
- 四年　南房総白浜（六月七日～十一日）
- 五年　裏磐梯高原（七月十八日～二十三日）
- 六年　南房総館山（七月十八日～二十三日）

今年は遅い入梅とともに冷夏が予想されており、七月実施の夏の学校の運営が心配されますが、どの学年も健康で安全な夏の学校となることを期待しています。

毎年ご紹介していることですが、今年度も蹊医会のご協力で、全学年に医師・看護師が同行します。また六年の水泳訓練には、ＯＢ師範団や高校生師範助手が同行します。多くの「ふれあいとつながり」の中で夏の学校が開設されることに心から感謝しています。

運動会「走り出せ 輝き出した 夢を追え」

五月二十二日、好天のもとで運動会を実施しました。

運動会は一学期の最も大きな行事であり、オープンスクールや文化祭とともに外部希望者にも公開する行事として、ＰＴＡ総務部の皆さまに受付のお仕事をお願いしています。今年も千二百名ほどの外部参観者がありました。

今年は各学年の演技や競技を出来るだけ間近に見て応援していただくため、保護者応援席の家庭占有を廃止し、学校側が用意したシートに種目ごとに保護者に交代していただく「保護者譲り合い席」としました。ＰＴＡ総務部をはじめとした保護者の皆さまのご努力によって大きな混乱もなく運動会を実施することができました。

皆さまのご協力に心より感謝申し上げます。

今年の運動会の紅白対抗は、最後の種目、全校大玉おくりの結果まで勝敗の行方が分からないという大接戦となり大いに盛り上がりました。競技種目の得点経過をプログラムとともに紹介します。

運動会プログラム

開会式

号砲、ファンファーレ、入場行進、開会宣言、優勝旗返還（昨年度優勝赤組）、学校長の話、はじめの言葉（1年生代表）、選手宣誓（赤白応援団長）

午前の部	赤	白
合同体操（全校）		
応援合戦		
かけっこ50m（2年生）	112	78
大玉はこび（3年生）	15	5
徒競走100m（5年生）	95	115
おどって玉入れ（1年生）	0	20
つなひき（3･4年生）	10	10
徒競走100m（6年生）	68	142
つなひき（1年生･教職員）		
組体操「ちょうわ」（3年生）		
かけっこ50m（1年生）	95	95
おっタマころげた～!（2年生）	5	15
踊り「ソーラン☆2010」（4年生）		
騎馬戦（5･6年生 女子）	0	20
低学年リレー	50	15

午後の部	赤	白
応援合戦		
陣取り綱引き（PTA）		
徒競走80m（4年生）	143	67
リズムなわとび「希望の唄」（5年生）		
おっとあぶない（1年生）	88	102
踊り「うわじまガイヤ」（2年生）		
騎馬戦（5･6年生 男子）	20	0
大事にしてね（4年生）	10	10
ピエロ競走（2年生）	99	91
徒競走80m（3年生）	79	111
組体操「6 Senses」（6年生）		
高学年リレー	35	30
大玉おくり（全校）	30	0

閉会式

成績発表（赤954点、白926点）
優勝旗授与、学校長の話、おわりの言葉（桃の会委員長）、校歌、閉会宣言

第１表 【消費収支計算書】（要約）

2009（平成21）年4月1日から2010（平成22）年3月31日まで　（単位：百万円）

消費収入の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
学生生徒等納付金	11,583	11,600	17
手数料	716	792	76
寄付金	417	375	△ 42
補助金	1,518	1,561	43
（国庫補助金）	(800)	(838)	(38)
（地方公共団体補助金）	(714)	(721)	(7)
（その他補助金）	(4)	(2)	(△ 2)
資産運用収入	393	471	78
資産売却差額	0	6	6
事業収入	198	239	41
雑収入	499	437	△ 62
帰属収入合計	15,324	15,481	157
基本金組入額合計	△ 981	△ 1,111	△ 130
消費収入の部合計	14,343	14,370	27

消費支出の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
人件費	8,260	7,847	△ 413
教育研究経費	4,656	4,474	△ 182
管理経費	919	886	△ 33
借入金等利息	31	31	0
資産処分差額	521	604	83
徴収不能引当金繰入額	19	9	△ 10
徴収不能額	0	11	11
〔予備費〕	(0) 230		△ 230
消費支出の部合計	14,636	13,862	△ 774
当年度消費収支差額	△ 293	508	
前年度繰越消費収支差額	△ 3,116	△ 3,116	
基本金取崩額	0	414	
次年度繰越消費収支差額	△ 3,409	△ 2,194	

第２表 【資金収支計算書】（要約）

2009（平成21）年4月1日から2010（平成22）年3月31日まで　（単位：百万円）

収入の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
学生生徒等納付金収入	11,583	11,600	17
手数料収入	716	792	76
寄付金収入	417	335	△ 82
補助金収入	1,518	1,561	43
（国庫補助金収入）	(800)	(838)	(38)
（地方公共団体補助金収入）	(714)	(721)	(7)
（その他補助金収入）	(4)	(2)	(△ 2)
資産運用収入	393	471	78
資産売却収入	800	856	56
事業収入	198	239	41
雑収入	499	437	△ 62
借入金等収入	500	501	1
前受金収入	2,170	2,440	270
その他の収入	3,130	2,899	△ 231
資金収入調整勘定	△ 2,986	△ 2,929	57
前年度繰越支払資金	10,524	10,524	
収入の部合計	29,462	29,726	264

支出の部			
科　目	予　算	決　算	差　異
人件費支出	8,675	8,193	△ 482
教育研究経費支出	2,652	2,496	△ 156
管理経費支出	743	727	△ 16
借入金等利息支出	31	31	0
借入金等返済支出	688	689	1
施設関係支出	1,101	1,001	△ 100
設備関係支出	445	444	△ 1
資産運用支出	5,303	4,140	△ 1,163
その他の支出	846	848	2
〔予備費〕	(8) 342		△ 342
資金支出調整勘定	△ 542	△ 577	△ 35
次年度繰越支払資金	9,178	11,734	2,556
支出の部合計	29,462	29,726	264

第３表 【貸借対照表】（要約）

2010（平成22）年3月31日　（単位：百万円）

資産の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定資産	76,285	76,888	△ 603
有形固定資産	45,605	46,862	△ 1,257
土地	6,237	6,237	0
建物・構築物	32,480	32,926	△ 446
教育研究用・その他の機器備品	1,749	1,816	△ 67
図書	5,138	4,986	152
その他	1	1	0
建設仮勘定	0	896	△ 896
その他の固定資産	30,680	30,026	654
有価証券	4,332	4,932	△ 600
指定包括信託	1,495	1,478	17
特定資産	24,427	23,214	1,213
その他	426	402	24
流動資産	13,425	11,941	1,484
現金預金	11,734	10,524	1,210
有価証券	1,200	800	400
その他	491	617	△ 126
資産の部合計	89,710	88,829	881

負債の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
固定負債	4,828	5,189	△ 361
長期借入金	502	518	△ 16
長期未払金	2	0	2
退職給与引当金	4,324	4,671	△ 347
流動負債	3,140	3,517	△ 377
前受金	2,440	2,451	△ 11
その他	700	1,066	△ 366
負債の部合計	7,968	8,706	△ 738

基本金の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
第１号基本金	74,053	73,361	692
第２号基本金	0	100	△ 100
第３号基本金	8,799	8,694	105
第４号基本金	1,084	1,084	0
基本金の部合計	83,936	83,239	697

消費収支差額の部			
科　目	本年度末	前年度末	増　減
次年度繰越消費収支差額	△ 2,194	△ 3,116	922
消費収支差額の部合計	△ 2,194	△ 3,116	922

科　目	本年度末	前年度末	増　減
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	89,710	88,829	881

2009年度 決算及び事業報告について

学校法人成蹊学園の2009年度決算は、学園監事および監査法人の監査を受け、5月28日の理事会・評議員会において、確定いたしました。2009年度の消費収支のバランスを表す消費収支計算書（第1表）についての概要は、次のとおりです。

納付金、手数料、補助金、資産運用収入などの本学園に帰属する「帰属収入」は合計で154億81百万円となりました。また、「基本金組入額」の合計は11億11百万円となり、うち第1号基本金は、2009年度に建設・購入等により取得した、建物、構築物、機器備品、図書等の資産分として10億6百万円、第3号基本金は三菱留学生奨学金基金等の積上げ分の1億5百万円となっています。

帰属収入からこの基本金組入額を控除した額が、消費（支出）に充当できる「消費収入」で、その額は143億70百万円となりました。

一方、教職員の人件費、教育研究・管理経費（減価償却額を含む）、借入金利息等の「消費支出」の合計は、138億62百万円となり、この結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、5億8百万円の消費収入超過となりました。

消費収支計算書の主な増加・減少要因等は次のとおりです。

- 納付金は帰属収入に占める最大の収入要因であり、その割合は約75%となりました。
- 教育研究経費は委託費や光熱水費などの節減等により減少しました。
- 当年度の収支差額は2億93百万円の消費支出超過を見込んでおりましたが、基本金組入額が1億30百万円増加した反面、帰属収入が1億57百万円増加したことおよび消費支出が7億74百万円減少したことから、5億8百万円の消費収入超過となりました。繰越消費収支差額は、前年度から繰越された31億1600万円の支出超過額から今年度の収入超過額と基本金取崩額を減じて、21億9400万円の支出超過となりました。

第2表の資金収支計算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されています。総額は297億26百万円となり、次年度繰越支払資金は117億34百万円となりました。

2009年度に実施した主な事業は次のとおりです。

創立100周年記念事業

けやきグラウンドの竣工

- 旧400mトラック・ラグビー場は、400mトラックをウレタン舗装化し、ラグビー場に人工芝を敷設して、名称も新たに「けやきグラウンド」として改修･整備いたしました。400mトラックは、8レーンの日本陸連公認規格に適合しております。ラグビー場は、ラグビーゴールポストを外すことでサッカー場としての使用も可能で、その水はけのよさから利用率が高まっております。南側観覧席の中央部には新たに本部棟を建築し、放送設備を整備いたしました。
  けやきグラウンドの名称は学内関係者からの公募により決定いたしました。12月にはこけら落としとして成蹊ラガークラブ主催による成蹊大学対甲南大学のラグビーの試合が行われました。けやきグラウンドは、小学生から大学生までが利用し、ワンキャンパスを謳う学園の象徴的施設となると思われます。

国際教育センター

- ケンブリッジ大学の学生劇団であるペンブルックプレイヤーズが3度目の来校をし、9月に大学4号館ホールにおいて「The Tempest」成蹊公演を行いました。学園の児童・生徒・学生のほか保護者や地域の方々計200名が来場しての盛況な開催となりました。また、ケンブリッジ大学の学生と学園の中学生・高校生・大学生が一緒に、当日の劇に親しむための事前学習としてワークショップを開催し、交流を深めました。
- 毎年度取り組んでいる小学校の多読プログラムは、2009年度から1年生から4年生までを対象にしたリードアラウドWorkshop（年9回実施）と5･6年生を対象にしたReading For Fun Workshop（年9回実施）として内容の充実を図りました。Read Aloud文庫も各学年のワークスペースに絵本を配置し多読教育の基礎を築いています。上記2つの事業は、学園創立100周年記念事業に対していただいた寄付金から支出いたしました。
- 2006年度から開始した成蹊高校生対象のケンブリッジ大学ペンブルックカレッジへの短期留学について、2009年度は7月に高校生26名を派遣しました。

学園環境の整備

- 旧箱根寮の宿舎跡地の東側広場にバーベキューコーナーを設置いたしました。夏の学校などの学校行事やゼミ・クラブなどの合宿時などにバーベキューができるようになり、大変好評を得ております。また、2009年度も周遊歩道沿いにシャクナゲを植樹し群生地の造成を図りました。

研究活動の高度化

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究助成金を受けて推進している理工学部の「人と環境に優しい統合化された社会システム研究基盤整備」の研究は、2年目を迎え2回のシンポジウムを開催し、研究の進捗状況などについての報告を行いました。

学園施設の再開発

- 学園本館の改修
  予想以上に躯体の劣化が進んでいたため工期を延ばした学園本館の改修工事は、無事2009年4月竣工となりました。その後5月に北1号館からの移転作業を行い、本稼動を始めました。大講堂には中村春二先生の肖像画、岩崎小弥太先生、今村繁三先生のお写真や成蹊の名の由来などを掲出いたしました。
- 旧中学ホームルーム棟の解体と中学校前庭の整備
  中学・高等学校の施設建築計画が一段落したことにより、旧中学ホームルーム棟を解体処分いたしました。その跡地はバレーコートなども備えた中学校の前庭として整備いたしました。
- トンネル山グラウンドの改修
  情報図書館や小学校本館の建築に当たり、その間の代替施設として北1号館（トンネル山校舎）をトンネル山グラウンドに建てておりました。2009年7月にその解体も終わったことにより、グラウンドには水はけの良い土を使用するなどして新たに整備いたしました。また、一角には小学校PTAからまわり平行棒が寄贈されました。

学習・教育支援体制の整備

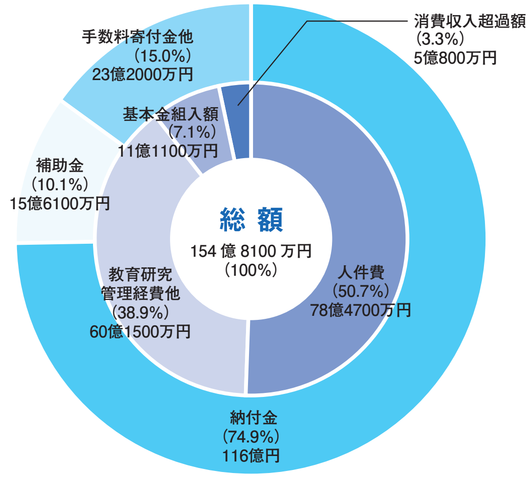
- 情報教育システムおよびCALLシステムの更新
  大学7･8･14号館に設置している情報教育システムについて3年間のレンタル契約期間が終了しましたので、9月に新システムへの入替を実施いたしました。また、同時に大学3号館のCALLシステムと情報図書館に設置しているパソコンについても老朽化が進んでいることにより新たにレンタル契約を結びリプレイスを実施いたしました。今回の契約全体でパソコン約900台分を入れ替えました。
- 大学4号館の視聴覚設備改修
  大学4号館の視聴覚設備は、通常の授業での使用のほか、学内行事やクラブ活動、学会などの外部貸出などに頻繁に利用されておりますが、最近は経年劣化による老朽化が目立ち始めましたので新システムに改修いたしました。照明の懸吊ワイヤーなど施設の改修並びにAVシステムの制御機器の更新などについても同時に改修いたしました。
- 中高中央館コンピューター教室のシステム更新等
  コンピューターを利用した授業の増加に伴い1教室を中高中央館に増設し、2教室での授業運営が実施できるようにいたしました。なお、既存のコンピューター教室のシステムも老朽化していたことから、同時に新システムにリプレイスいたしました。
- 学内のバリアフリー推進の一つとして、2009年度は大学9号館の入り口に自動扉を設置いたしました。
- 小学校ポプラグラウンドに砂場・鉄棒・散水栓を設置しました。

その他の事業

- 成蹊学園の各校の在校生や卒業生並びに保護者などの成蹊関係者が出演する第3回成蹊音楽祭を、改装成った学園本館大講堂で12月に開催いたしました。当日は、第1部で在校生・卒業生・保護者の方々の演奏やコーラス、第2部では卒業生の髙井優希さんを指揮者としてオーケストラの演奏、第3部では卒業生によるジャズの演奏が行われ、成蹊関係者のみではなく近隣の皆さまにも音楽会を堪能していただきました。

2009年度消費収支計算書を図で表すと、次のとおりです。

基本金組入額は、計算書では帰属収入合計から控除することになっていますが、図では支出額に加えて表示しています。



成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金寄付申込者ご芳名

第28回 2010年2月1日〜2010年4月30日ご入金分

成蹊学園創立一〇〇周年記念事業募金の趣旨にご賛同賜り、多数の皆さま方から心温まるご支援をいただきました。
ここに第二十八回のご芳名を発表し、ご協力を賜りました方々のご芳志に厚く御礼申し上げます。

掲載要項

- 掲載区分は、①法人、②団体・その他、③個人の三区分で、個人については、在学生父母・同窓生（同窓会別）・篤志家・教職員（学園関係者を含む）に分類しています。
- 原則として、掲載区分・ご芳名等は、申込書に記入された表記に基づいております。
- 匿名を希望された方々のご芳名は掲載しておりません。

寄付入金状況（2010年4月30日現在） 単位（千円）

区分	入金件数※	寄付金額
在学生父母	1,574	176,052
同窓生	4,592	205,575
教職員･学園関係者	3,239	87,777
法人･団体その他	610	914,369
合　計	10,015	1,383,773
上記の他お申込額		166,440
総合計		3,267,047

※入金件数には分割納入金が重複しています。
※総合計には2003年度以降の教育充実資金を含みます。

募金局からのお知らせ

◎ご芳名の掲載要項は前述の通りとなっておりますが、ご質問の多い点につきまして補足させていただきます。
皆さま方のご理解ご協力をお願いいたします。

1. 学園広報への掲載は、掲載対象期間中のご入金すべてを掲載させていただいております。したがいまして再度のご入金を賜わりました場合も、その都度掲載させていただいております。（自動振替・分割納入等の場合の二回目以降も同様に掲載しています）

2. ご芳名は原則として、申込書・振込用紙等に記載されました寄付者番号の区分で掲載されております。「同窓生で在学生ご父母」「同窓生で学園教職員」のように複数の区分に該当される方で複数区分への掲載を希望される方はお申し出ください。年一回発行の芳名録で反映させていただきます。

「教育充実資金」ご寄付者芳名録について

学園創立一〇〇周年記念事業募金に組み入れております「教育充実資金」は、ご協力いただいた方のお名前を個別に公表はしておりませんが、ご寄付者芳名録（二〇〇三年度から二〇一二年度を対象）については、二〇〇三年度より各年度版を順次作成し、現在、二〇〇九年度版までを保管管理しております。つきましては、各年度版の「教育充実資金」ご寄付者芳名録の閲覧をご希望の方は、募金局までお申し出ください。

パソコン・携帯電話からのクレジットカード決済のご案内

パソコン・携帯電話からのお申し込みによるクレジットカード決済で、寄付をしていただくことができます。
簡単にお手続きできますので、ぜひご利用ください。

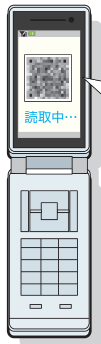
〈パソコンをご利用の場合〉

1 成蹊学園トップページ http://www.seikei.ac.jp を開き、画面右上にある「100周年記念事業」をクリックしてください。

2 100周年記念事業ページの左下にある「パソコン・携帯電話からの募金のお申し込みはこちら」をクリックしてください。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。
決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

〈携帯電話をご利用の場合〉



1 左の二次元バーコードを読み取り、空メールを送信してください。読み取れない場合は bokin@sk.seikei.ac.jp に、直接空メールを送信してください。

2 数秒後にURLが記載されたメールが返信されますので、そのURLにアクセスしてください。

3 「成蹊学園募金モバイルサイト」が表示されますので、お手続きください。

※ご利用いただけるのは、i-mode、EZweb、Yahoo!ケータイに対応した機種となります。

以降は画面表示に従って、手続きをお進めください。
決済が完了すると、申込完了メールが届きます。

【ご利用にあたって】
- ●クレジットカード決済は、個人の方のみご利用いただけます。（法人・団体でのご寄付をご希望の場合は、誠にお手数ですが募金局までお問い合わせください）
- ●ご寄付者名とカード名義人は同一であることが必要です。
- ●ご利用いただけるカードは、DCカード・VISAカード・マスターカードです。

【お問い合わせ先】
成蹊学園
創立100周年記念事業募金局
電話：0422-37-3941
e-mail：fund@jim.seikei.ac.jp

二〇一一年度 入学試験日程

全学部統一入試を吉祥寺（本学）・横浜・さいたまの３会場で実施。一般入試の成績上位者（S方式は合格者全員）には奨学金を給付。

本学は昨年度実施された一般入学試験において、おかげさまで25,205名の志願者を集め、3年連続で志願者増を達成することができました。今年度の入学試験においても、昨今の経済不況による大学進学を取り巻く影響に配慮し、これまで同様に一般入試（E・A・C方式）の成績上位者と大学入試センター試験利用5科目型奨学金入試（S方式）の合格者全員に初年度年間授業料の半額相当を給付いたします。

大学

● E方式（全学部統一入試）：2教科型

学部	学科	募集人員	出願期間	試験日	合格発表日
経済学部	経済経営学科	40	1月5日（水）～1月20日（木）《消印有効》	2月3日（木）	2月9日（水）
法学部	法律学科	24			
	政治学科	12			
文学部	英米文学科	7			
	日本文学科	6			
	国際文化学科	6			
	現代社会学科	8			
理工学部	物質生命理工学科	12			
	情報科学科	12			
	エレクトロメカニクス学科	12			

● A方式（一般選抜入試）：3教科型

学部	学科		募集人員	出願期間	試験日	合格発表日
経済学部	経済経営学科	地歴公民型	130	1月5日（水）～1月27日（木）《消印有効》	2月13日（日）	2月20日（日）
		数学型	45			
法学部	法律学科		110		2月14日（月）	2月21日（月）
	政治学科		58			
文学部	英米文学科		55		2月12日（土）	2月19日（土）
	日本文学科		43			
	国際文化学科		50			
	現代社会学科		46			
理工学部	物質生命理工学科		43		2月11日（金）	2月18日（金）
	情報科学科		43			
	エレクトロメカニクス学科		43			

● C方式（センター試験利用3教科型入試）／S方式（センター試験利用5科目型奨学金入試）

学部	学科	募集人員		出願期間	試験日	合格発表日
		C方式	S方式			
経済学部	経済経営学科	35	5	1月5日（水）～1月14日（金）《消印有効》	1月15日（土） 1月16日（日） ［大学入試センター試験日］ 本学での二次試験は実施しない。	2月9日（水）
法学部	法律学科	36	4			
	政治学科	24	2			
文学部	英米文学科	10	2			
	日本文学科	8	2			
	国際文化学科	8	2			
	現代社会学科	8	2			
理工学部	物質生命理工学科	27	3			
	情報科学科	27	3			
	エレクトロメカニクス学科	27	3			

● AOマルデス入試

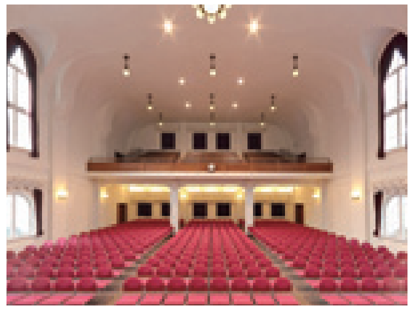
学部	学科	募集人員		出願期間	一次審査	一次審査合格発表	二次審査	二次審査合格発表
		一般	特別					
経済学部	経済経営学科	25	帰国生特別受験 社会人特別受験 外国人特別受験 各学科：若干名	9月22日（水）～10月6日（水）《消印有効》 ただし10月7日（木）は本学で窓口受付を行います。	10月23日（土）	10月29日（金）	11月6日（土）	11月13日（土）
法学部	法律学科	6						
	政治学科	4						
文学部	英米文学科	6						
	日本文学科	3						
	国際文化学科	6						
	現代社会学科	6						
理工学部	物質生命理工学科	10			審査			合格発表日
	情報科学科	10			10月31日（日）			11月13日（土）
	エレクトロメカニクス学科	10						

高等学校・中学校・小学校

募集年次			募集人員	出願期間	試験日	合格発表日
高等学校	第1学年		男女約70名	郵送1月25日(火)～1月29日(土)《消印有効》 窓口受付2月3日(木)10:00～15:00	2月10日（木）	2月11日（金）
	第1学年帰国生		男女若干名	2月5日(土)～2月7日(月)・2月12日(土)	2月14日（月）	2月15日（火）
	第2学年編入		男女若干名	2月28日（月）～ 3月 8日（火）	3月14日（月）	3月15日（火）
中学校	第1学年		第1回：男子約55名 女子約40名 第2回：男子約20名 女子約15名	郵送1月20日(木)～1月22日(土)《消印有効》 窓口受付（第2回のみ） 2月3日(木) 10:00～15:00	第1回：2月 1日（火） 第2回：2月 4日（金）	第1回 ：2月2日(水) 第2回(HP) ：2月4日(金) 第2回(掲示)：2月5日(土)
	国際学級第1学年	9月期入学	男女若干名	2010年6月11日(金)～6月17日(木)	2010年7月 1日（木）	2010年7月2日(金)
		4月期入学	男女約10名 ※状況により2次募集を実施	12月 9日（木）～12月15日（水）	1月12日（水）	1月13日（木）
	第2学年帰国生編入		男女若干名	12月 9日（木）～12月15日（水）	1月12日（水）	1月13日（木）
小学校	第1学年		112名（男子56名／女子56名）	9月29日（水）～10月 1日（金）	男子：11月1日（月）午前と 2日（火）～4日（木）の1日 女子：11月1日（月）午後と 2日（火）～4日（木）の1日 保護者面談（男女とも） 11月2日（火）～4日（木）の1日	11月 5日（金）
	国際学級第4学年	4月期入学	16名	1月10日（月）～ 2月25日（金）	3月 5日（土）	3月 7日（月）

成蹊から お伝えしたいこと

学園 TOPICS



学園本館が「平成二十一年度照明普及賞」を受賞しました

学園本館が社団法人照明学会の認定する平成二十一年度照明普及賞を受賞しました。

この賞は、優れた照明施設を表彰しているものです。

特に大講堂の照明はシャンデリアも含めオリジナルの姿を留めながら全ての電球がＬＥＤに改修され、省エネルギーと長寿命化を図っていること、エントランス部の外灯も大正末期の写真から忠実にオリジナルを復元したことなどが評価されました。

名古屋・仙台 2会場で地域懇談会を開催

該当地域にお住まいの方へは、別途ご案内状を差し上げます。ぜひお越しください。

名古屋会場

【対象地域】
静岡県・愛知県・岐阜県・三重県
日程：2010年9月18日（土）
会場：名古屋マリオットアソシアホテル

仙台会場

【対象地域】
青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
日程：2010年10月30日（土）
会場：ホテルJALシティ仙台

■対象者 …………… 在校生保証人
■式次第（共通）…… 全体説明会
懇談会

※ 両会場とも午後の開催を予定しています。

＜お問い合わせ先＞
成蹊大学 教務部：0422-37-3736

箱根寮の2009年度年間利用者が6,000名を越えました

箱根寮の2009年度年間延べ利用者数が6,000名を越えました。

箱根寮を管理していただいている深谷新一さん・照美さんご夫妻の多大な功績に学園として感謝の意を表すべく、4月20日に加藤節専務理事から賞状と記念品を贈呈いたしました。

7月にはバーベキューハウスの新築をはじめとする整備工事も竣工しました。

皆さまのご利用をお待ちしています。

箱根寮の申し込み方法

予約は次の期日により管財課で行ってください。

● ゼミ合宿・部活動での使用
使用開始日の属する月の前々月の最初の事務取扱日から。
ただし、次の期間にかかる使用の受付開始日は下記のとおりとします。
7月下旬～9月中旬 6月最初の事務取扱日から（初日のみ電話受付は13時から）

● 個人使用
使用開始日の属する月の前月の最初の事務取扱日から。
ただし、次の期間にかかる使用の受付開始日は下記のとおりとします。
7月下旬～9月中旬 7月最初の事務取扱日から

※夏期期間・年末年始期間については管財課へお問合せください。

＜お問い合わせ先／詳細につきましてはホームページでご確認ください＞
窓口またはお電話 ▶▶▶ 管財課：0422-37-3511
ホームページ ▶▶▶ http://www.seikei.ac.jp